

山形県尾花沢市立鶴子小学校「21世紀起業家精神醸成プロジェクト」(平成 15 年度)

<p>教育の対象者 小学 3 ～ 6 年生全員</p> <p>教育の実施者 山形県尾花沢市立鶴子小学校</p> <p>教育プログラムの企画者 小学校教頭</p>
<p>教育プログラム企画の背景・経緯 山形県村山総合支庁による呼びかけを受け、同県産業経済部の「起業家教育推進事業」の支援を受けて実施。</p> <p>教育プログラムの目標 アントレプレナーシップ教育は起業家だけでなく誰にとっても必要であり有益な教育である。地域内人材の土台(環境)をつくり、21世紀の村山地域産業の発展・雇用の創出につなげる。</p>
<p>教育プログラムの内容 実施期間・回数・頻度・延べ時間 ・2003 年 4 月から「総合的な学習の時間」全 90 時間の中で実施</p> <p>実施場所 ・教室内、農園、販売場所(尾花沢市ふれあい祭り、銀山温泉)</p> <p>対象者の人数規模 ・小学 3 ～ 6 年生 24 名</p> <p>プログラムの内容 ・わたしたちの会社～役割分担を決める～ ・会社名とマークを考えよう ・事業計画を立てよう～価格を決めよう、利益はいくら?、リサーチ ・宣伝を考えよう～チラシ・ポスターの完成 ・大根の栽培 ・仕入れ・製造 ・地区内での販売(7月) ・尾花沢市ふれあい祭りと銀山温泉での販売(10月) ・また、考案した会社マークを東北経済産業局主催の「小中学生発明王コンテスト」に出品した。</p> <p>講師 ・小学校教頭 柏倉 泰樹 氏</p> <p>使用教材 ・特になし</p>
<p>教育プログラムの効果 子ども達は、販売実践を重ねるごとに、つるで作ったリース、木を輪切りにしたコースター、木の葉を使ったしおりや肩たたきサービス券を付けたり、レシピを付けたり、大根収穫日記を付けるなど、自分達で考えてお客に喜ばれる工夫をするようになった。子ども達が自信を持って生き生きと活動した。 全校で 40 名の小規模学校でも、地域の協力をもとに市内に発信できる店作りができるすばらしさを知り、店を開くことで多くの人々とコミュニケーションできる力を身につけることができた。 大根一つでもこれだけの手間ひまがかかるという事実を実感したことで、店に並ぶ野菜やそれ以外の商品の価格や価値を実感できるようになり、ものを大切に思う気持ちが育った。 ものを作る喜び、売る喜びを実感できた。</p>

<p>鶴子というふるさとの特性や良さを認識し、ふるさを大切に思う気持ちが育った。</p> <p>教育プログラム実施にあたっての課題 栽培体験と販売活動の両方をねらったため、どっちつかずの面が生じ、時間の制約もあって、活動時間を設定することに苦労した。じっくり栽培したり、観察記録をとらせたりする時間がとれず、大根に十分に感動する間がないままに販売活動をおこない、余裕の無い活動にくたくたとなった。 教師の負担、P T Aの負担が大きかった。 収益金の使途が最大の課題となった。子ども達に自分で考えさせたところ、自分達が稼いだお金だから好きな物を買いたいという本音が明らかとなった。教師としては、地域の支援で得たお金だから地域に還元してほしいと思ったが、それを強制するべきかで悩んだが、アントレプレナーシップ教育を実施している民間企業の社長に相談し、大人が自信をもって人の道を説く機会であるとのアドバイスを受け、まずは支援を受けた地域に御礼をし、次に自立体験の証として寄付という社会貢献があることを子ども達に話したところ、子ども達も理解し、自分達でそれぞれ社会貢献としての使い道(交通安全用の反射テープを全戸に配布、クルミの木を植樹、図書館にソファとじゅうたんを寄付)を考え、実行した。</p>
<p>照会先 山形県尾花沢市立鶴子小学校 教頭 柏倉 泰樹 氏 ・〒999-4443 山形県尾花沢市大字鶴子 672 ・TEL:0237-28-2126</p>

(資料)モニタリング結果
鶴子小学校資料